『これからの5年を考える』

高城地区社会福祉協議会　会長　石田　操

高齢化の進展に伴い、公民館加入者の減少が続く中、最重点活動として、高齢者の見守りを兼ねる「ふれあいいきいきサロン・配食サービス」を充実していきたいです。そして、誰もが安心して住み慣れた地域で暮らせるまちを目指していきたいで

高城地区社協　これからも続けていきたい活動

地域福祉合同学習会

地区社協の構成員である、民生委員児童委員と公民館長が一堂に会して、年に１回、地域福祉について学び合い、親睦を深めます。より良い連携協働に結びついています。

社会福祉施設意見交換会

高城地区内の社会福祉施設やNPO法人、一般社団法人等との意見交換会を年１回実施しています。高城地区内での課題を共有したり、新たな団体の活動の情報提供等、意見交換の場となっています。

ボランティア・福祉まつり

毎年11月３日に実施される高城地区全体のお祭りです。こどもさん達とふれあうゲームコーナーやわたがしコーナー等を提供し、住民との交流を図っています。

ふれあいいきいきサロン＆配食サービス

地域住民からお寄せいただいた地区社協会費を原資として、自治公民館ボランティアグループがふれあいいきいきサロンや配食サービスに取り組んでいます。

15地区地域福祉活動計画　高城地区社会福祉協議会

高城地区スローガン

ふるさとを愛し、誇りを持ち、新しい時代を拓く高城人を育む！

【基礎情報】（R2.5.1）

人口規模（住基人口）	全　体	10,204 人	世帯数	4,866 世帯
	男　性	4,802 人	自治公民館加入世帯	3,585 世帯
	女　性	5,402 人	自治公民館加入率	73.7%

【高城地区の現状・課題】計画策定作業と「地域福祉に関するアンケート調査」結果より

○公民館に関する問題

・公民館未加入世帯が増えてきている
・班長など役員の仕事や役割についての理解不足や活動意識の低下がある
・若い世帯が増えても、公民館に加入しない

○人口減少に関する問題

・いったん町を出た若い人は、地元に戻ってこない
・市町村合併により、都城市内での移動(転居)の手続きがしやすくなった。その結果、高城地区の人口が市内の他地区へ動く傾向がある。現在、高城地区の人口は１万人強だが、今後は減少に転じる
・１年間に生まれるこどもが６０人位である

○コロナ禍による問題

・コロナを理由に活動が減少し、活気がなくなった

○高齢者の移動支援・買物支援に関する問題

・高齢者の運転免許証返納に伴い、移動支援の課題が上がってくる。行政が補助金を出しているコミュニティバスは、利用しても待ち時間が長く、利用者数が増えない（居住地によっては、目的地とわが家への往復に、半日以上かかることもある）
・住民による移動支援サービスを考えるにしても、人材、財源等良い知恵が浮かばない
・行政が補助金を出している買物支援カーよりも、純粋な民間業者による移動販売車の方が値段も安く、心待ちにしている高齢者も多い

○自殺に関する問題

・自殺者が多い地区がある

○地区社会福祉協議会の問題

・世間的に相談窓口は多くなっているが、地区社協の実際の相談は少ない

高城地区地域福祉活動計画

（計画実施期間・令和３年度～令和７年度）

計画スローガン（大項目）

ふるさとを愛し、誇りを持ち、新しい時代を拓く 高城人を育む

中項目	小項目	具体的な取り組み内容
1　認知症や自殺問題、移動困難等、様々な課題を抱える方々が安心して SOS を出せる、そして受け止めることができる地域づくりを行っていきます（地域づくり）	1 - ①困っている方々が、SOS を出せる、そしてその SOS を受け止めることができる地域づくりを目指します	新規）・ゲートキーパー研修・心の健康講座の実施（R3～） 継続）・認知症学習会
	1- ②一人暮らし高齢者の見守り活動を推進していきます	継続）・ふれあいいきいきサロン・配食サービスの実施
	1 - ③こけない体操を工夫して、バージョンアップしていきます	新規）・こけない体操にぼけない体操をプラスして、認知症の予防にも取り組みます（R3～）
	1 - ④地域の要は、自治公民館。自治公民館への加入促進を自公連と共に粘り強く行っていきます	継続）・公民館加入のメリットを粘り強く、PR する 新規）・子育て世代・高齢者世代の役員免除を提案していく（R3～）
	1- ⑤住民が身近で参画できる活動を提供していきます	継続）・ボランティア・福祉まつりの開催
2　学校と地域が一体となって、これからの人材を育成していきます（人づくり・つながりづくり）	2 - ①地域住民が主体となって、若者の福祉教育・防災教育に取り組みます	継続）・地区内の小中学校を対象とした福祉教育・防災教育の実践 新規）・地区内の高校を対象とした福祉教育・防災教育の実践
	2 - ②こどもを真ん中に、郷土愛を深めるお母（棺）教育を普及していきます	継続）・地区内の小中学校・高校を対象としたお母（棺）教育の実践（R3～）
3　様々な関係機関・団体が協議できる場づくりに取り組みます（協議の場づくり）	3 - ①様々な福祉課題を協議できる場をつくります	継続）・旧４小学校区単位での地域生活支援会議の実施
	3 - ②様々な活動主体との意見交換の場をつくります	継続）・地域福祉合同研修会 継続）・社会福祉施設等意見交換会
4　地域住民の困りごとに対応できる組織体制づくりを目指します（しくみ・体制づくり）	4 - ①事務局体制を充実強化していきます	新規）・事務局開設週２回体制をめざします
	4 - ②広報 PR 活動を強化します	継続）・広報紙の発行 新規）・事務局開設チラシの作成（R3～）